

平成26年度 行政評価事業別シート

実計対象	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	土屋昌詔
全体計画						経費区分		-		内線	245-1598
事務事業名	4327 公民館人権同和教育推進事業										
所 属	130600 市民共創部・中央公民館										
施 策	07013800 人権が尊重される社会の実現										
予算科目	会計	01 一般会計									
	科目	100804 教育費・人権同和教育費・公民館人権同和教育費									
	事業	010000 公民館人権同和教育推進事業									
事業目的						事業概要・効果					
地域住民一人ひとりが人権問題を共通の課題として理解し、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくす意識の高揚を図る。						人権教育の必要性は益々大きくなってきている。同和問題をはじめあらゆる差別をなくし、住みよい暮らしよい地域社会を気づくため、町別人権同和问题学習会の支援及び公民館が行う学級・講座等で取り組み、人権教育学習の充実を図り、市民の人権問題学習への関心を高めていく必要がある。 人権同和问题学習会に参加する人が増えることによって、市民の人権尊重への意識が高まる。					

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成22年度 実績	平成23年度 実績
平成24年度 実績	平成25年度 実績
人権感覚の高揚を図るため、町別・ブロック別人権同和问题学習会を支援した。	人権感覚の高揚を図るため、町別・ブロック別人権同和问题学習会を支援した。
平成26年度 予定	平成27年度 予定
人権感覚の高揚を図るため、町別・ブロック別人権同和问题学習会を支援する。	人権感覚の高揚を図るため、町別・ブロック別人権同和问题学習会を支援する。

指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		平成25年度 決 算	平成26年度 予 算
事業費		1,547	1,661
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		1,547	1,661
人員数(人)	正規職員	0.2	0.2
	嘱託職員	0.5	0.5
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	1,371.6	1,371.6
	嘱託職員	1,362.5	1,362.5
	臨時職員	0.0	0.0
	計	2,734.1	2,734.1
市民一人当たりの経費		0.1	0.1
総額		4,281.1	4,395.1

(単位：千円)

平成25年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	197	資料代等
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	1,350	人権同和教育分館活動費交付金
その他	0	

(単位：千円)

平成26年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	50	講師謝礼
11節 需用費	216	資料代等
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	1,386	人権同和教育分館活動費交付金
その他	9	郵便料等

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	差別のない社会を目指すことは、行政としての使命である。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	普通
評価コメント	学習会を開催することで、人権同和教育を推進することができる	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	変わらない
評価コメント	学習会に参加する人数を増やすことで効果を上げることができる。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

学習会を継続実施し、成果を広めていく。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	簡易な改善（拡大）	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>地域住民一人ひとりが人権問題を共通の課題として理解し、人権問題を自らのことと意識し、人権尊重の意識の高揚を図ることが大切である。</p>		<p>継続していくことが重要。</p>	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	